

第2次平戸市総合計画

第2回

豊かで伸びゆくまちづくり部会

議 事 録

と き：平成29年12月25日（月）10：00～11：30

と ころ：平戸市役所 3階 会議室 AB

開催日時	平成 29 年 12 月 25 日 (月) 10:00~11:30
開催場所	平戸市役所 3階 会議室 AB
出席委員 (50音順、敬称略)	久原鐵男、滝 友則、藤澤美好、松山芳弘、吉居辰美、吉福弘実 (6名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	橋口和久、 (1名)
事務局 (財務部企画財政課)	小出企画財政課長、藤山企画統計班長、田中企画統計班主査 (農林課)川内課長、(商工物産課)村田課長、(観光課)藤田課長、 (文化交流課)加藤参事監、今村班長
次第 1. 開 会	
2. 企画財政課長 あいさつ	小出企画財政課長
3. 議 事 第2次平戸市総合 計画の基本計画 (案)について ①基本プロジェク ト1 しごとをひ ろげるプロジェク ト 委員長 委 員	(事務局から基本プロジェクト1について 新旧対照表に基づき修正内容の説明) 資料1～5について、ご意見等はないか。数字については我々には分 かりにくいので、事務局のほうで間違いのないように確認してほしい。 資料3【平戸市のいま】の8行目に「雇用者の確保」とあるが、 「者」を削除して「雇用の確保」としたほうがいいのではないか。裏面 の、施策2の①の「雇用者確保」についても、同様に「者」を削除した ほうがいい。

事務局	削除する。
委員	現状、縫製工場等に中国人等の外国人が就労されており、5年後、10年後を見据えると、観光、ホテル関係でも人材の確保という面で、外国人を雇用すること考えていく必要があるのではない。地元の住民に対して刺激的な言葉にならないように、まずは研修生として受け入れるなどするといいいのではないか。
事務局	ここの主な取組みか文章の中に入れたほうがいいのか。
委員	現実にホテルの方が、そういう制度があったらいいと言われている。入れ方については事務局にお任せする。
事務局	内部で検討する。
部会長	実際に、人材育成制度に外国人も参加されているか。
事務局	今は入れていない。市内のアリエス、丸正被服、館浦漁協等では数年前から外国人を雇用されている。ただ、研修制度での雇用なので3年で入れ替わるが、それでも人材不足のために外国人に頼らざるを得ないというのが現状と聞いている。
部会長	それは企業の取り組みとしての雇用。市としても外国人の雇用とか研修の制度があればというご意見だと思う。
事務局	今のところは、市の方針として積極的にやっっていこうといったことはないが、将来、人口が減少していく中で必要ということであれば、1つの項目として挙げておいてもいいと思う。

<p>委員</p>	<p>資料3の【平戸市の未来】に「にぎわいのある商工業」とあるが、「にぎわい」というのは場所に対して使われる言葉なので、「活気のある」など、別の表現にしたほうがいいのではないかと。</p> <p>資料4の2枚目の「みんなにできること」に、「平戸産品が全国に誇れるものであることを認知し」とあるが、「認知」は第三者的な使われ方をする言葉なので、他の表現にしたほうがいい。</p>
<p>事務局</p>	<p>内部で調整する。</p>
<p>委員</p>	<p>資料1の施策4「生産基盤を整備する」で、遊休農地対策として「農地中間管理事業の推進」という取組みを挙げたという説明があったが、こういう表現では一般の市民には分からない。遊休農地対策ということが分かるように書いてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>前回の意見を反映して⑤を加えたのが、確かにこの事業名では市民には分からないと思うので、荒廃農地対策、耕作放棄地対策など、遊休農地対策ということが市民に分かる表現に変えたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>事業名はこのままでも構わないが、説明とか課題のところ、遊休農地対策が農業関係で非常に重要な課題であるということを書いてほしい。</p>
<p>部会長</p>	<p>農地中間管理事業と遊休農地の解消とは別問題。ご意見の趣旨を踏まえて検討してほしい。</p>
<p>②基本プロジェクト5 たからをみせるプロジェクト</p>	<p>(事務局から基本プロジェクト5について 新旧対照表に基づき修正内容の説明)</p>

委員	<p>新旧対照表の9ページに、「行政・観光協会の事業の一元化」とあるが、どういうことか。</p>
事務局	<p>今、観光協会と観光課でプロモーションやPRをやったり、誘致宣伝で海外に行ったりしているが、予算のこと等いろいろ指摘されているので、将来的にはプロパーがいる観光協会に事業を展開していただく形にしたいと考えている。それをこのように表現した。</p>
委員	<p>連携ということだと思うが、「一元化」となっていたのでお尋ねした。</p>
委員	<p>資料を読んで、理解できない用語が随分あった。例えば、5-1-1の「平戸版DMO」、5-1-2の「観光コンシェルジュ」、「シティプロモーション」、5-1-3の施策1の「海・山・歴を活用したアクティビティなどの充実」、5-1-4の施策1の「VR観光」「ICT」など、非常に分かりづらい。行政用語ではなく、市民に分かりやすい言葉にしたほうがいい。まちづくり協議会は、以前はコミュニティと言っていて地域の人には理解されてなかった。それをまちづくり協議会という表現にしたら、協力しようという雰囲気が出てきた。分からない文言では市民の協力は得られないので、分かる言葉で書いたほうがいい。</p>
事務局	<p>前回も、分かりにくい用語があるという指摘があったので、直せる部分は極力直したが、分かるように書くとか説明を入れるとかすると文章の量が増えてしまうことから、直さなかった文言もある。そこについては注釈を付ける形で対処したいと考えている。他にも行政関係者にしか分からない文言等があると思うので、再度見直して、分かりやすい言葉に変えられないか検討したい。</p>
部会長	<p>観光の関係者の中では、一般的に使われているという言葉もあると思う。</p>

事務局	<p>既に対外的に使っているとか、他市町村でも使われているような言葉は、文章にすると逆に分かりにくい場合もある。注釈は入れるが、言葉自体を直したほうがいいのか、注釈で説明するか、内部で検討したい。</p>
委員	<p>この読み手は市民であって観光業の専門家ではないので、市民が分かりやすいような表現を検討いただきたい。その際に、いろいろな施策や取組みについて、表現においても横串を通していただきたい。</p> <p>資料6、5-1-1の施策1の①の「平戸版DMO」は、観光庁が日本版DMOと言っていることを知っている人には分かるが、分からない人も多いので、DMOの後に括弧書きで「観光地域づくり法人」とか「観光まちづくり法人」等入れてはどうか。また、④に「大学連携」とあるが、これは大学間の連携か、それとも平戸市と大学との連携か。</p> <p>資料7、5-1-2の施策1の③の「観光コンシェルジュ」について、5-1-3には「体験観光ガイド」、5-2-1の施策3の④には「文化観光ガイド」とあって、読む方が混乱するのではないか。表現を変える必要はないが、質問された時に回答ができるように整理したほうがいい。</p> <p>資料9、5-1-4の施策1の「ICT」には「情報通信技術」、「VR」には「仮想現実」と括弧書きで入れてはどうか。「HP」は分かる方が多いと思うので、お任せする。施策2の③と④はどう違うのか分かりづらい。</p> <p>資料10、5-1-5の【平戸市の未来】に、「国内の観光客にとっても魅力ある」とあるが、副詞と区別がつかないので、「国内の観光客にも魅力ある」としたほうがいい。</p> <p>資料11、5-1-6の「みんなにできること」に「ふるさとの歴史」とあるが、5-3-1では「地域の魅力」という表現がある。ふるさとと地域は同じ意味だと思うので必要に応じて整理をしてほしい。</p> <p>資料12、5-2-1の施策3の⑤は、「来訪者への秩序ある文化財の公開の推進」としてはどうか。</p> <p>資料14、5-3-1の施策1の本文の3行目に、「また、私たちがまだ気付いていない資源を見いだす」とあるが、具体的な例を何か挙げるとよ</p>

	り良い。
部会長	指摘については、内部で協議をしていただきたい。
委員	<p>注釈についても、他の部会からも意見を聞いて、誰にも読みやすいようにしていただきたい。</p> <p>資料8、5-1-3の「ロングステイ」について、長期滞在型ということはあるが、例えば、何日以上というような記載があるとより分かりやすい。</p> <p>主な取組みの④に「体感型観光」とあるが、体験型とどう違うのか。</p>
事務局	体験は、グリーンツーリズムなどで、来て味わうといった意味。体感とは、それに加えて、五感で感じてもらうという意味。
委員	例えば、今一番人気がある漁師体験で言えば、定置網を引いて、捕れた魚を食べてもらうということをしているが、その延長線上の体感としてはどういうものがあるか。
事務局	今までは、触って、食べるというところまでだったが、体感では、持ち帰って自分の家でもその余韻に浸ってもらうというところまでつなげていこうと考えている。歴史の観光も、これまではガイドの話の聞くだけだったが、もう一度平戸について調べてみようと思ってもらえたら、再来訪につなげるといったことを、体感型と表現している。
部会長	そういうことも「体験」に含まれるのではないか。
事務局	体験よりさらに進めるという意味で、あえて「体感」と入れた。
委員	体感という言葉は全国的に使われているのか。

事務局	五感で感じてもらうということで、全国でも使われ始めている。バーチャル観光というのものも、その1つ。
委員	事業者や観光客に対して、どこまでという部分を示したほうが良いと思う。
事務局	今の点については、「平戸市のいま」のところに説明を入れるような形で考えたいと思う。
委員	「体験から体感へ」などと書くといいと思う。
事務局	イベント等も今後は体感型にしていきたいと考えている。例えば花火大会も、今までは見て終わりだったが、体感できるものを入れて、観光客の滞在時間を長くするとか、泊まっていただくというところにつなげていこうということで、「体感型」とあえて入れさせていただいた。平戸の観光をそういうものにシフトしていかないといけないと考えている。
委員	私たちは例年5月3～5日に渡海人祭を開催しており、地引き網やタコつかみ等をやってきたが、体感型にするにはどういうことをすればいいのか疑問に思ったので質問した。
委員	体感型よりも体験型のほうが、市民にはなじむのではないか。
委員	市民向けであるとともに、観光客向けという面も考慮して、イベントをやる側として、表現や取組みの方向を考えないといけないと感じた。
部会長	今のようなご意見もあるので、慎重に審議をお願いします。 新旧対照表の12ページで、施策3「そこそこ観光を脱却する」が削除になっているが、「そこそこ観光」という言葉が悪いだけなので、中

	身を全部削除する必要はないと思う。
事務局	主な取組み等を精査する中で、他の施策に包含されるものや内容が重複するものを整理したところ、この項目を残す必要がなくなったので削除した。
部会長	「日本一、日本初事業の創出」はどこに入ったのか。
事務局	日本一、日本初の創出事業は、テーマ観光、体感型のイベント、アクティビティ、世界遺産ルート等におけるICTの活用の中で、平戸発の情報をタイムリーに出していこうと考えている。今は1人に1台携帯を持っていて、誰もがすぐに見ることができるし、SNSで話題になったものがテレビに取り上げられるという時代なので、どんどん情報発信することで事業を展開していけると考えている。
委員	中身は立派なので、「そこそこ観光」という表現だけを変えて、この施策自体は残したほうがいいと思う。
委員	日本一、日本初事業については私も同感。平戸にも日本一や日本初のものがあるということを市民が分かると、5-2-1に出てくる「市民の郷土愛」にもつながると思う。観光客に向けて平戸をアピールするためにも、平戸はいい所だと平戸市民自身が感じる事が大切。その意味からも、日本一、日本初事業はあったほうがいいと思う。
部会長	3人から意見が出ましたので、検討していただければと思う。
事務局	検討する。
委員	資料5、1-2-1の基本施策1「新たなビジネス産業を構築する」について、「ビジネス産業」という文言は非常に違和感があるので、例えば

	<p>「産業と雇用を構築する」等としてはどうか。また、裏のページの「みんなにできること」について、ここは前の案から修正をしているが、「新たなビジネスに関心を持ち……新たなビジネスにチャレンジしましょう」と、言葉が重複しているので、整理していただけたらと思う。</p> <p>資料7、5-1-2の「みんなにできること」について、「市民一人ひとりができることから実行し、おもてなしの心で観光客を迎えましょう」とあるが、例えば「笑顔であいさつしましょう」など、何か具体的な例を書くと市民に分かりやすい。</p> <p>事務局 この部会は2回を原則として考えている。今回頂いたいろいろなご指摘については、内部で協議させていただく。本日頂いたご意見の他に、内部で再度確認する中で修正の必要がある部分が出てくるかもしれない。それらの修正結果は、次回の審議会の時に他の部会の分と併せて説明させていただきたいと考えている。</p> <p>今回頂いたご指摘を踏まえて修正を加え、1月末までに基本計画をまとめたいと考えている。また、前は基本計画以外に「やらんば燦燦プロジェクト」という重点プロジェクトを掲げていたが、今回も向こう10年間の平戸が勝ち残るための重点プロジェクトを掲げようと考えている。それと、地域づくりプロジェクトもあるので、第5回審議会は早くても2月下旬頃になると思う。できるだけ多くの委員に出席いただける日程で調整したいと思う。</p> <p>(11:35終了)</p>
--	---